校異源氏物語・ほたる

いまはかくおも　くしきほとによろつのとやかにおほししつめたる御ありさまなれはたのみきこえさせ給へる人　くさま　くにつけてみな思ふさまにさたまりたゝよはしからてあらまほしくてすくし給ふたいのひめ君こそいとおしく思ひのほかなる思ひそひていかにせむとおほしみたるめれかのけむかうかりしさまにはなすらふへきけはひならねとかゝるすちにかけても人の思ひよりきこゆへき事ならねは心ひとつにおほしつゝさまことにうとましとおもひきこえ給ふなに事をもおほししりにたる御よはひなれはとさまかうさまにおほしあつめつゝはゝ君のおはせすなりにけるくちをしさもまたとりかへしおしくかなしくおほゆおとゝもうちいてそめ給ひてはなか　くくるしくおほせと人めをはゝかり給ひつゝはかなき事をもえきこえ給はすくるしくもおほさるゝまゝにしけくわたり給ひつゝおまへの人とをくのとやかなるおりはたゝならすけしきはみきこえ給ふことにむねつふれつゝけさやかにはしたなくきこゆへきにはあらねはたゝみしらぬさまにもてなしきこえ給ふ人さまのわらゝかにけちかくものしたまへはいたくまめたち心し給へと猶をかしくあいきやうつきたるけはひのみみえ給へり兵部卿宮なとはまめやかにせめきこえ給ふ御らうの程はいくはくならぬにさみたれになりぬるうれへをし給ひてすこしけちかきほとをたにゆるし給はゝ思ふ事をもかたはしはるけてしかなときこえ給へるをとのこらむしてなにかはこの君たちのすき給はむはみところありなむかしもてはなれてなきこえ給ひそ御かへりとき　くきこえ給へとてをしへてかゝせたてまつりたまへといとゝうたておほえ給へはみたり心ちあしとてきこえ給はす人　くもことにやむことなくよせおもきなともおさ　くなしたゝはゝ君の御をちなりけるさい将はかりの人のむすめにて心はせなとくちおしからぬかよにおとろへのこりたるをたつねとり給へるさい将の君とててなともよろしくかきおほかたもおとなひたる人なれはさるへきおり　くの御かへりなとかゝせたまへはめしいてゝことはなとの給ひてかゝせ給ふものなとのた給ふさまをゆかしとおほすなるへしさうしみはかくうたてあるものなけかしさの後はこの宮なとはあはれけにきこえ給ふときはすこしみいれ給ふ時もありけりなにかとおもふにはあらすかく心うき御け

しきみぬわさもかなとさすかにされたるところつきておほしけりとのはあいなくをのれ心けさうして宮をまちきこえ給ふもしり給はてよろしき御かへりのあるをめつらしかりていとしのひやかにおはしましたりつまとのまに御しとねまいらせてみき丁はかりをへたてにてちかきほとなりいといたう心してそらたきもの心にくきほとにゝほはしてつくろひおはするさまおやにはあらてむつかしきさかしら人のさすかにあはれにみえたまふさい将の君なとも人の御いらへきこえむ事もおほえすはつかしくてゐたるをむもれたりとひきつみ給へはいとわりなし夕やみすきておほつかなき空のけしきのくもらはしきにうちしめりたる宮の御けはひもいとえむなりうちよりほのめくおひかせもいとゝしき御にほひのたちそひたれはいとふかくかほりみちてかねておほしゝよりもおかしき御けはひを心とゝめたまひけりうちいてゝ思ふ心のほとをの給ひつゝけたることのはおとな　くしくひたふるにすき　くしくはあらていとけはひことなりおとゝいとおかしとほのきゝおはすひめ君はひんかしおもてにひきいりておほとのこもりりにけるをさい将の君の御せうそこつたへにゐさりいりたるにつけていとあまりあつかはしき御もてなしなりよろつのことさまにしたかひてこそめやすけれひたふるにわかひ給ふへきさまにもあらすこの宮たちをさへさしはなちたる人つてにきこえ給ましきことなりかし御こゑこそおしみ給ふともすこしけちかくたにこそなといさめきこえ給へとゐとわりなくてことつけてもはいゝり給ぬへき御心はへなれはとさまかうさまにわひしけれはすへりいてゝもやのきはなるみき丁のもとにかたはらふし給へるなにくれとことなかき御いらへきこえ給ふこともなくおほしやすらふによりたまひてみき丁のかたひらをひとへうちかけ給ふにあはせてさとひかるものしそくをさしいてたるかとあきれたりほたるをうすきかたにこのゆふつかたいとおほくつゝみをきてひかりをつゝみかくし給へりけるをさりけなくとかくひきつくろふやうにてにわかにかくけちえむにひかれるにあさましくてあふきをさしかくし給へるかたはらめいとおかしけなりおとろかしきひかりみえは宮ものそき給なむわかむすめとおほすはかりのおほえにかくまてのたまふなめり人さまかたちなといとかくしもくしたらむとはえをしはかり給はしいとよくすき給ひぬへき心まとはさむとかまへありき給ふなりけりまことのわかひめ君をはかくしもゝてさはき給はしうたてある御心なりけりこと方よりやをらすへりいてゝわたり給ひぬ宮は人のおはするほとさはかりとをしはかり給ふかすこしけちかきけはひするに御心ときめきせられ給ひてえならぬうすものゝかたひらのひまよりみいれ給へるにひとまはかりへた

てたるみわたしにかくおほえなきひかりのうちほのめくをおかしとみたまふ程
もなくまきらはしてかくしつされとほのかなるひかりえむなることのつまにも
しつへくみゆほのかなれとそひやかにふし給へりつるやうたいのおかしかりつ
るをあかすおほしてけにこのこと御心にしみにけり
　なくこゑもきこえぬむしの思ひたに人のけつにはきゆるものかはおもひし
り給ひぬやときこえ給ふかやうの御かへしを思まはさむもねちきたれはときは
かりをそ
　声はせて身をのみこかすほたるこそいふよりまさるおもひなるらめなとは
かなくきこえなして御みつからはひきいり給ひにけれはいとはるかにもてなし
給ふうれはしさをいみしくうらみきこえ給ふすきすきしきやうなれはゐたまひ
もあかさてのきのしつくもくるしさにぬれ　くよふかくいて給ひぬほとゝきす
なとかならすうちなきけむかしうるさけれはこそきゝもとめね御けはひなとの
なまめかしさはいとよくおとゝの君ににたてまつり給へりと人　くもめてきこ
えけりよへいとめおやたちてつくろひ給ひし御けはひをうち　くはしらてあは
れにかたしけなしとみないふひめ君はかくさすかなる御けしきをわか身つから
のうさそかしおやなとにしられたてまつりよのひとめきたるさまにてかやうな
る御心はへならましかはなとかはいとにけなくもあらまし人にゝぬありさまこ
そつゐによかたりにやならむとおきふしおほしなやむさるはまことにゆかしけ
なきさまにはもてなしはてしとおとゝはおほしけりなをさる御心くせなれは中
宮なともいとうるはしくや思ひきこえ給へることにふれつゝたゝならすきこえ
うこかしなとし給へとやむことなき方のをよひなくわつらはしさにおりたちあ
らはしきこえより給はぬをこの君は人の御さまもけちかくいまめきたるにをの
つからおもひしのひかたきにおり　く人みたてまつりつけはうたかひおひぬへ
き御もてなしなとはうちましるわさなれとありかたくおほしかへしつゝさすか
なる御なかなりけり五日にはむまはのおとゝにいて給けるついてにわたり給へ
りいかにそや宮は夜やふかし給ひしいたくもならしきこえしわつらはしきけそ
ひ給へる人そやひとの心やふりものゝあやまちすましき人はかたくこそありけ
れなといけみころしみいましめおはする御さまつきせすわかくきよけにみえ給
つやも色もこほるはかりなる御そになをしはかなくかさなれるあはひもいつこ
にくはゝれるきよらにかあらむこのよの人のそめいたしたるとみえすつねの色
もかへぬあやめもけふはめつらかにおかしくおほゆるかほりなとも思ふ事なく
はおかしかりぬへき御ありさまかなとひめ君おほす宮より御ふみありしろきう

すやうにて御てはいとよしありてかきなし給へりみるほとこそおかしけれまねひいつれはことなることなしや

けふさへやひく人もなきみかくれにおふるあやめのねのみなかれんためしにもひきいてつへきねにむすひつけ給へれはけふの御かへりなとそゝのかしをきていて給ひぬこれかれもなをときこゆれは御心にもいかゝおほしけむ

あらはれていとゝあさくもみゆるかなあやめもわかすなかれけるねのわか

くしくとはかりほのかにそあめるてをいますこしゆへつけたらはと宮はこのましき御心にいさゝかあかぬことゝみたまひけむかしくすたまなとえならぬさまにて所　くよりおほかりおほししつみつるとしころのなこりなき御ありさまにてこゝろゆるひ給ふ事もおほかるにおなしくは人のきすつくはかりのことなくてもやみにしかなといかゝおほさゝらむとのはひむかしの御方にもさしのそき給ひて中将のけふのつかさのてつかひのついてにをのこともひきつれてものすへきさまにいひしをさる心し給へまたあかきほとにきなむものそあやしくこゝにはわさとならすしのふることをもこのみこたちのきゝつけてとふらひものし給へはをのつからこと　くしくなむあるをようゐしたまへなときこえ給ふむまはのおとゝはこなたのらうよりみとおすほととをからすわかき人ゝわたとのゝとあけてものみよや左のつかさにいとよしある官人おほかるころなりせう

くの殿上人におとるましとのたまへはものみむことをいとおかしとおもへりたいの御方よりもわらはへなともののみにわたりきてらうのとくちにみすあをやかにかけわたしていまめきたるすそこのみき丁ともたてわたしわらはしもつかへなとさまよふさうふかさねのあこめふたあひのうすものゝかさみきたるわらはへそにしのたいのなめるこのましくなれたるかきり四人しもつかへはあふちのすそこの裳なてしこのわかはのいろしたるからきぬけふのよそひともなりこなたのはこきひとかさねになてしこかさねのかさみなとおほとかにてをの　くいとみかほなるもてなしみところありわかやかなる殿上人なとはめをたてゝけしきはむひつしの時にむまはのおとゝにいて給ひてけにみこたちおはしつとひたりてつかひのおほやけことにはさまかはりてすけたちかきつれまいりてさまことにいまめかしくあそひくらし給ふ女はなにのあやめもしらぬことなれととねりともさへえむなるさうそくをつくして身をなけたるてまとはしなとをみるそおかしかりけるみなみのまちもとをしてはる　くとあれはあなたにもかやうのわかき人ともはみけり打毬楽らくそむなとあそひてかちまけのらさうとものゝしるもよにいりはてゝなに事もみえすなりはてぬとねりとものろくしな　く

給はるいたくふけてひとひとみなあかれ給ひぬおとゝはこなたにおほとのこもりぬ物かたりなときこえ給て兵部卿宮の人よりはこよなくものし給かなかたちなとはすくれねとようゐけしきなとよしありあいきやうつきたる君なりしのひてみたまひつやよしといへとなをこそあれとのたまふ御おとうとにこそものし給へとねひまさりてそみえ給ひけるとしころかくおりすくさすわたりむつひきこえ給ふときゝ侍れとむかしの内わたりにてほのみたてまつりし後おほつかなしかしいとよくこそかたちなとねひまさり給ひにけれそちのみこよくものしたまふめれとけはひおとりておほ君けしきにそものし給ひけるとのたまへはふとみしりたまひにけりとおほせとほゝゑみてなをあるをよしともあしともかけ給はす人のうへをなむつけおとしめさまの事いふ人をはいとおしきものにしたまへは右大将なとをたに心にくき人にすめるをなにはかりかはあるちかきよすかにてみむはあかぬ事にやあらむとみたまへとことにあらはしてものたまはすいまはたおほかたの御むつひにておましなともこと　くにておほとのこもるなとてかくはなれそめしそと殿はくるしかり給ふおほかたなにやかやともそはみきこえ給はてとしころかくおりふしにつけたる御あそひともを人つてにみきゝ給ひけるにけふめつらしかりつることはかりをそこのまちのおほえきら　くしとおほしたる

そのこまもすさめぬ草となにたてるみきはのあやめけふやひきつるとおほとかにきこえ給なにはかりの事にもあらねとあはれとおほしたり

にほとりにかけをならふるわかこまはいつかあやめにひきわかるへきあいたちなき御事ともなりやあさゆふのへたてあるやうなれとかくてみたてまつるは心やすくこそあれたはふれ事なれとのとやかにおはする人さまなれはしつまりてきこえなし給ふゆかをはゆつりきこえ給ひてみき丁ひきへたてゝおほとのこもるけちかくなとあらむすちをはいとにけなかるへきすちに思ひはなれはてきこえ給へれはあなかちにもきこえ給はすなかあめれいのとしよりもいたくしてはるゝかたなくつれ　くなれは御方　くゑものかたりなとのすさひにてあかしくらし給ふあかしの御かたはさやうのことをもよしありてしなし給てひめ君の御方にたてまつり給ふにしのたいにはましてめつらしくおほえ給ことのすちなれはあけくれかきよみいとなみおはすつきなからぬわか人あまたありさま

くにめつらかなる人のうへなとをまことにやいつはりにやいひあつめたる中にもわかありさまのやうなるはなかりけりとみたまふすみよしのひめ君のさしあたりけむおりはさるものにていまのよのおほえもなを心ことなめるにかそへ

のかみかほと　くしかりけむなとそかのけむかゆゝしさをおほしなすらへ給ふとのもこなたかなたにかゝるものともものちりつゝ御めにはなれねはあなむつかし女こそものうるさからす人にあさむかれむとむまれたるものなれこゝらのなかにまことはいとすくなからむをかつしる　くかゝるすゝろ事に心をうつしはかられ給ひてあつかはしきさみたれのかみのみたるゝもしらてかき給ふよとてわらひ給ものからまたかゝるよのふる事ならてはけになにをかまきるゝことなきつれつれをなくさめましさてもこのいつはりとものなかにけにさもあらむとあはれをみせつき　くしくつゝけたるはたはかなしことゝしりなからいたつらに心うこきらうたけなるひめ君のものおもへるみるにかた心つくかしまたいとあるましき事かなとみる　くおとろ　くしくとりなしけるかめおとろきてしつかにまたきくたひそにくけれとふとおかしきふしあらはなるなともあるへしこのころおさなき人の女はうなとに時　くよまするをたちきけはものよくいふものゝよにあるへきかなそらことをよくしなれたるくちつきよりそいひいたすらむとおほゆれとさしもあらしやとのたまへはけにいつはりなれたる人やさま

　くにさもくみ侍らむたゝいとまことのことゝこそ思ふ給へられけれとてすゝりをゝしやり給へはこちなくもきこえおとしてけるかな神よゝり世にあることをしるしをきけるなゝり日本記なとはたゝかたそはそかしこれらにこそみち

　くしくくはしき事はあらめとてわらひ給ふその人のうへとてありのまゝにいひいつる事こそなけれよきもあしきも世にふる人のありさまのみるにもあかすきくにもあまることを後の世にもいひつたへさせまほしきふし　くを心にこめかたくていひをきはしめたるなりよきさまにいふとてはよき事のかきりえりいてゝ人にしたかはむとては又あしきさまのめつらしき事をとりあつめたるみなかたかたにつけたるこのよのほかのことならすかし人のみかとのさえつくりやうかはるおなしやまとのくにのことなれはむかしいまのにかはるへしふかきことあさき事のけちめこそあらめひたふるにそら事といひはてむもことの心たかひてなむありけるほとけのいとうるはしき心にてときをき給へる御法もはうへむといふ事ありてさとりなきものはこゝかしこたかふうたかひをゝきつへくなんはうとう経の中におほかれといひもてゆけはひとつむねにありてほたいとほむなうとのへたゝりなむこの人のよきあしきはかりの事はかはりけるよくいへはすへてなに事もむなしからすなりぬやとものかたりをいとわさとのことにのたまひなしつさてかゝるふる事の中にまろかやうにしほうなるしれものゝ物語はありやいみしくけとをきものゝひめ君も御心のやうにつれなくそらおほめき

したるはよにあらしないさたくひなきものかたりにして世につたへさせんとさしよりてきこえ給へはかほゝひきいれてさらすともかくめつらかなる事はよかたりにこそはなり侍ぬへかめれとのたまへはめつらかにやおほえ給けにこそまたなき心ちすれとてよりゐたまへるさまいとあされたり

思ひあまりむかしのあとをたつぬれとおやにそむけるこそたくひなきふけうなるはほとけのみちにもいみしくこそいひたれとのたまへとかほもゝたけ給はねは御くしをかきやりつゝいみしくうらみ給へはからうして

ふるきあとをたつぬれとけになかりけりこのよにかゝるおやの心はときこえ給も心はつかしけれはいといたくもみたれ給はすかくしていかなるへき御ありさまならむゝらさきのうへもひめ君の御あつらへにことつけて物かたりはすてかたくおほしたりくまのゝものかたりのゑにてあるをいとよくかきたるゑかなとてこらむすちゐさき女君のなに心もなくてひるねしたまへる所をむかしのありさまおほしいてゝ女君はみたまふかゝるわらはとちたにいかにされたりけりまろこそなをためしにしつへく心のとけさは人にゝさりけれときこえいて給へりけにたくひおほからぬ事ともはこのみあつめ給へりけりかしひめ君の御まへにてこのよなれたるものかたりなとなよみきかせ給ひそみそか心つきたるものゝむすめなとはおかしとにはあらねとかゝる事よにはありけりとみなれ給はむそゆゝしきやとのたまふもこよなしとたいの御方きゝ給はゝ心をき給ひつへくなむうへ心あさけなる人まねともはみるにもかたはらいたくこそうつほのふちはら君のむすめこそいとおもりかにはか　くしき人にてあやまちなかめれとすくよかにいひいてたる事もしわさも女しき所なかめるそひとやうなめるとのたまへはうつゝの人もさそあるへかめるひと　くしくたてたるおもむきことにてよきほとにかまへぬやよしなからぬおやの心とゝめておほしたてたる人のこめかしきをいけるしるしにてをくれたる事おほかるはなにわさしてかしつきしそとおやのしわさゝへおもひやらるゝこそいとをしけれけにさいへとその人のけはひよとみえたるはかひありおもたゝしかしことはのかきりまはゆくほめをきたるにしいてたるわさいひいてたることのなかにけにとみえきこゆる事なきいとみをとりするわさなりすへてよからぬ人にいかてひとほめさせしなとたゝこのひめ君のてむつかれ給ふましくとよろつにおほしのたまふまゝはゝのはらきたなきむかしものかたりもおほかるを此比心みえに心つきなしとおほせはいみしくえりつゝなむかきとゝのへさせゑなとにもかゝせ給ひける中将の君をこなたにはけとをくもてなしきこえ給へれとひめ君の御方にはさしもさしはなち

きこえ給はすならはし給ふわかよの程はとてもかくてもおなしことなれとなからむよを思ひやるになをみつきおもひしみぬる事ともこそとりわきてはおほゆへけれとてみなみおもてのみすのうちはゆるし給へりたいはむ所女はうのなかはゆるし給はすあまたおはせぬ御なからひにていとやむことなくかしつききこえ給へりおほかたの心もちゐなともいともの　くしくまめやかにものし給ふきみなれはうしろやすくおほしゆつれりまたいはけたる御ひゝなあそひなとのけはひのみゆれはかの人のもろともにあそひてすくしゝとし月のまつ思ひいてらるれはひゐなのとのゝみやつかへいとよくし給ひており　くにうちしほたれ給けりさもありぬへきあたりにははかなしことものたまひふるゝはあまたあれとたのみかくへくもしなさすさるかたになとかはみさらむと心とまりぬへきをもしゐてなをさり事にしなしてなをかのみとりのそてをみえなをしてしかなと思ふ心のみそやむことなきふしにはとまりけるあなかちになとかゝつらひまとはゝたふるゝ方にゆるし給ひもしつへかめれとつらしとおもひしおり　くいかて人にもことはらせたてまつらむとおもひをきしわすれかたくてさうしみはかりにはをろかならぬあはれをつくしみせておほかたにはいられおもへらすせうとの君たちなともなまねたしなとのみおもふことおほかりたいのひめ君の御ありさまを右中将はいとふかく思ひしみていひよるたよりもいとはかなけれはこの君をそかこちよりけれとひとのうへにてはもとかしきわさなりけりとつれなくいらへてそものし給ひけるむかしのちゝおとゝたちの御なからひににたり内のおとゝは御こともはら　くいとおほかるにそのおひいてたるおほえ人からにしたかひつゝ心にまかせたるやうなるおほえ御いきほひにてみなゝしたて給ふ女はあまたもおはせぬを女御もかくおほしゝことのとゝこほり給ひひめ君もかくことたかふさまにてものしたまへはいとくちおしとおほすかのなてしこをわすれ給はすものゝおりにもかたりいて給ひしことなれはいかになりにけむものはかなかりけるおやの心にひかれてらうたけなりしひとを行ゑしらすなりにたることすへて女こといはむものなんいかにもいかにもめはなつましかりけるさかしらにわかこといひてあやしきさまにてはふれやすらむとてもかくてもきこえいてこはとあはれにおほしわたる君たちにもゝしさやうなるなのりする人あらはみゝとゝめよ心のすさひにまかせてさるましき事もおほかりし中にこれはいとしかをしなへてのきはにもおもはさりし人のはかなきものうむしをしてかくすくなかりけるものゝくさはひひとつをうしなひたることのくちおしき事とつねにのたまひいつなかころなとはさしもあらすうちわすれ給ひけるを人のさま

くにつけておんなこかしつきたまへるたくひともにわかおもほすにしもかな
はぬかいと心うくほいなくおほすなりけり夢みたまひていとよくあはするもの
めしてあはせ給ひけるにもしとしころ御心にしられ給はぬ御こを人のものにな
してきこしめしいつることやときこえたりけれは女この人のこになる事はおさ
おさなしかしいかなる事にかあらむなとこのころそおほしのたまふへかめる